

神戸市感染症発生動向調査週報

平成28年1月27日 作成

神戸市感染症情報センター

報告定点数 48 ケ所

第3週 2016年 1月 18日 ～

2016年 1月 24日

インフルエンザ

設置定点数 48 ケ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ	63	8	23	13	88	27	35	67	86	410	1	2	14	20	26	39	51	43	21	33	13	48	17	14	31	20	7	6	4	

小児科

報告定点数 31 ケ所
設置定点数 31 ケ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～
RSウイルス感染症	5		2	1	1		1	3	6	19	2	2	7	5	1	1			1					
咽頭結膜熱	2		2					3		7			2	1	1		2			1				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	7	1	1	6	3	9	15	28	76		1	2	7	6	11	12	6	11	7	4	7	1	1
感染性胃腸炎	22	6	5	8	36	5	45	52	17	196	1	9	30	21	17	18	9	11	3	10	4	21	9	33
水痘	2	1		2	3		5		7	20	1		3		3	5	1	1	3	3				
手足口病																								
伝染性紅斑	1	1	2		6			10	4	24				3	2	3	5	2	3	3	1	2		
突発性発疹				1			2	1	3	7		4	3											
百日咳																								
ヘルパンギーナ																								
流行性耳下腺炎	2	4			8		2	1	6	23			2	1	4	1	1	4	1	5	1	3		

インフルエンザの定点あたり患者報告数が8.54人となり、注意報レベル（同10人以上）に近づいてきました。注意報レベルは今後4週間以内に警報レベルの流行（同30人以上）が発生する可能性が高いことを指します。
先週と比べてすべての区において急激な患者の増加が観察されており、公立学校でも連日学級閉鎖が報告されています。
こまめな手洗い・うがい、マスク着用、室内の十分な湿度保持（50～60%）、栄養バランスのとれた食事の摂取など感染予防に努め、インフルエンザの症状（突然の高熱や全身倦怠感、筋肉痛等）が出たときはマスクを着け早めに医療機関を受診しましょう。

眼科

報告定点数 10 ケ所

設置定点数 10 ケ所

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～
急性出血性結膜炎																													
流行性角結膜炎	1	1				2				4						1							1		2				

（定点機関から報告されたその他の感染症情報）

東灘区○アデノウイルス感染症1例：年齢・性別不詳（6101）
東灘区○マイコプラズマ感染症1例：5～9歳女（6102）
灘 区○マイコプラズマ感染症1例：5～9歳女（6202）
中央区○マイコプラズマ感染症2例：10代男（6301）
垂水区○病原性大腸菌感染症2例：性別・年齢不詳（6804）
垂水区○細菌性腸炎（カンピロバクター）2例：年齢・性別不詳（6804）
垂水区○マイコプラズマ感染症2例：年齢・性別不詳（6804）
西 区○細菌性腸炎（カンピロバクター）1例：年齢・性別不詳（6902）

【結核に関する情報】 今週の結核届出患者数は10人（うち潜在性結核感染症2人）です。

【市内の感染症の状況】

○インフルエンザの定点あたり患者数は8.54人です。（先週は2.69人）
○流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の報告が全国的に例年より増加しています。
予防方法としてワクチン接種があり、任意接種（公費助成なし）として1歳以上で接種することができます。

【感染症発生動向調査事業実施要綱】

<http://www.city.kobe.lg.jp/life/health/infection/trend/img/youkou110729.pdf>

※病原体サーベイランスとは、流行する感染症の病原体を詳しく調べて、その特徴や流行状況を監視するシステムです。解析結果は、「神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況」をご覧ください。

【お知らせ】 バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。

[神戸市 発生動向](#) [検索](#)

または、神戸市ホームページ上段のバナーを以下のとおりたどってください。

（トップページ > くらし・手続き > 健康・医療 > 感染症・予防接種 > 感染症発生動向）

神戸市感染症発生動向調査週報

神戸市感染症情報センター 2016年1月27日 作成

全数把握対象感染症発生状況 (四類感染症 つつが虫病)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法 (検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	40代	2015年12月30日	2016年1月8日	2016年1月20日	/	血清IgM抗体の検出	頭痛、発熱、 刺し口、発疹、 リンパ節腫脹	不明	

全数把握対象感染症発生状況 (四類感染症 レジオネラ症)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法 (検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	80代	不詳	2016年1月20日	2016年1月20日	肺炎型	尿中の病原体抗原の 検出 (IC法)	発熱、肺炎	不明	

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 後天性免疫不全症候群)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法 (検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	30代	/	2016年1月18日	2016年1月25日	無症候性 キャリア	PA法 WesternBlot法	/	同性間性的接触	

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 急性脳炎)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法 (検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	0-4歳	2016年1月22日	2016年1月23日	2016年1月24日	/	臨床診断 病原体の検出	発熱、痙攣 意識障害	接触感染	

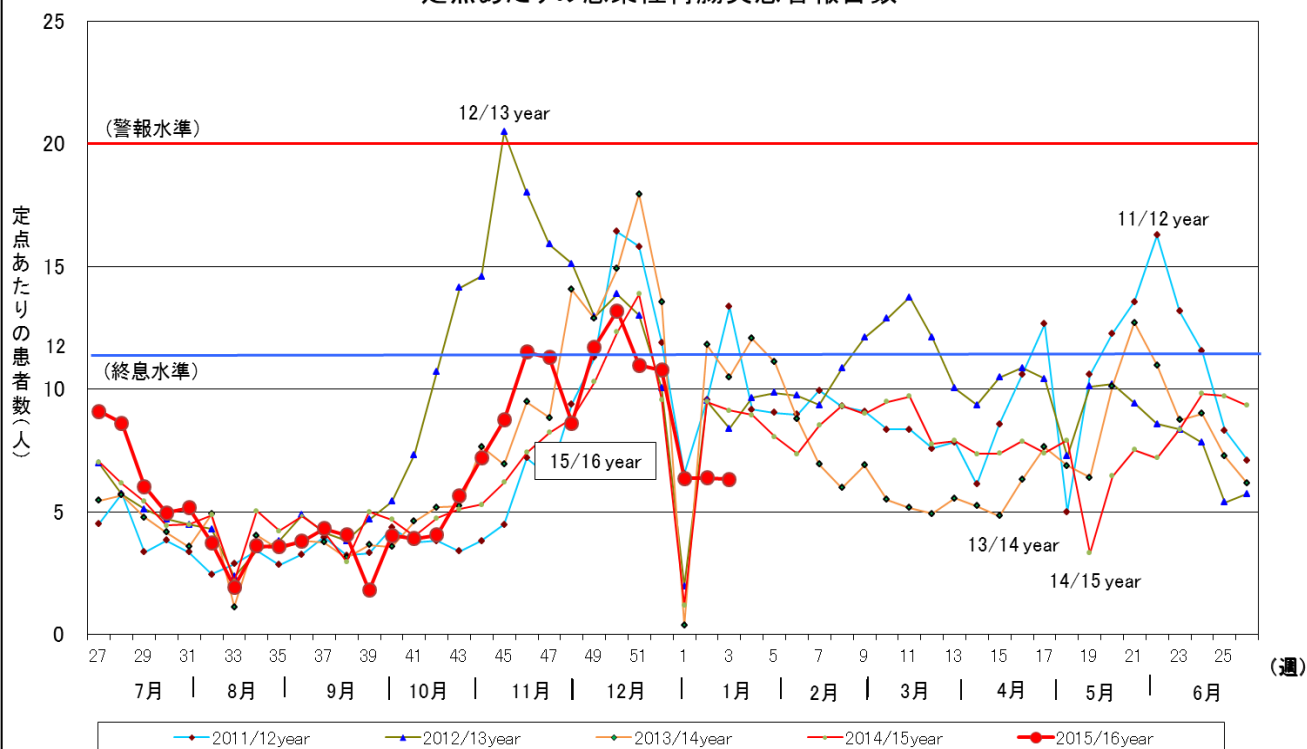
全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 梅毒)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法 (検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	30代	2015年12月頃	2016年1月26日	2016年1月27日	早期顕症 梅毒 I 期	RPRカードテスト TPHA法	初期硬結	異性間性的接触	

神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

病原体	検体	区	状況
A型インフルエンザウイルス (AH1pdm)	鼻腔拭い液	東灘	6歳1か月男児 (1/13採取、39.0℃、インフルンザ、ワクチン接種済み)
	鼻腔拭い液	東灘	2歳5か月男児 (1/19採取、38.0℃、インフルンザ、ワクチン未接種)
B型インフルエンザウイルス (ビクトリア系統)	鼻腔拭い液	東灘	9歳11か月女児 (1/20採取、38.0℃、インフルンザ、ワクチン未接種)

定点あたりの感染性胃腸炎患者報告数



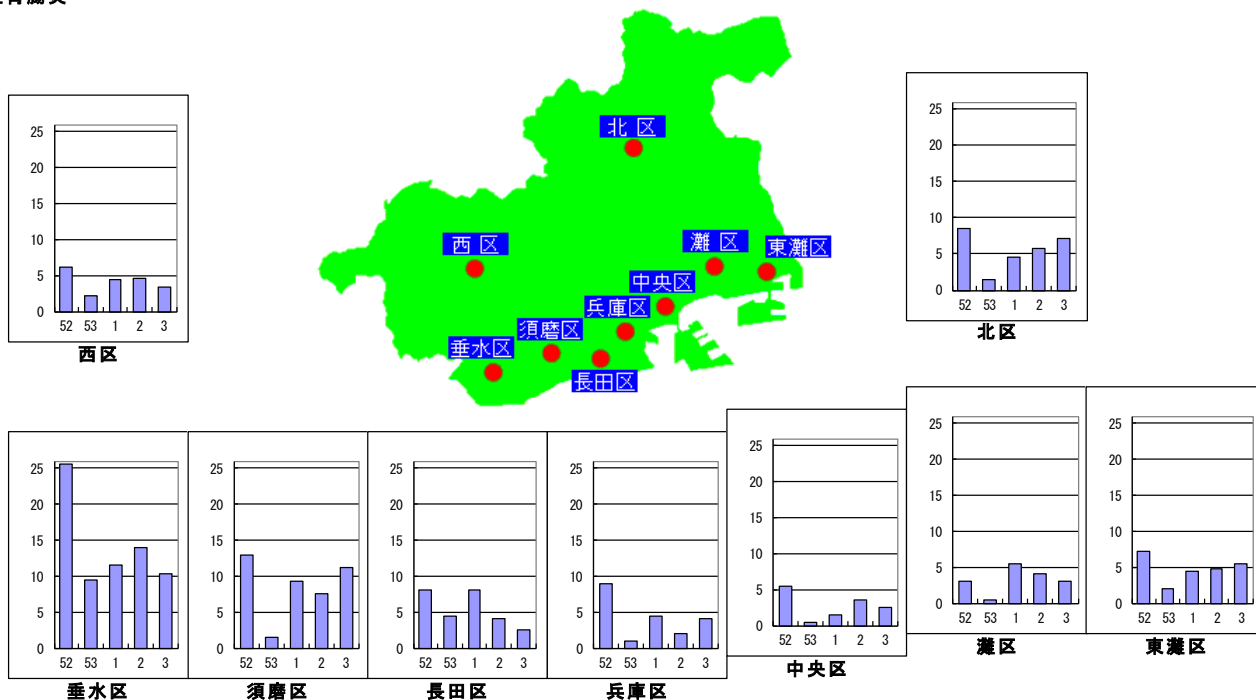
疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 52 週 平成27年12月21日

～

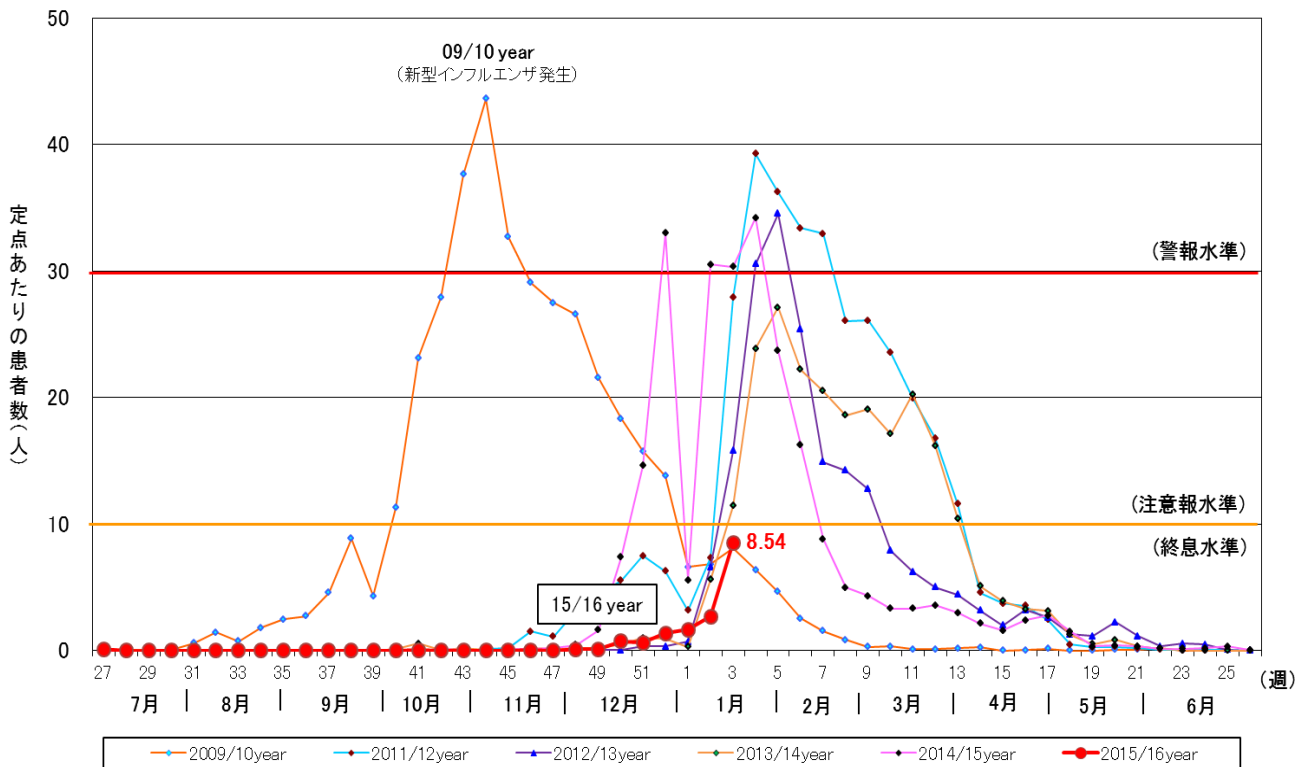
第 3 週 平成28年1月24日

感染性胃腸炎



※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。

定点あたりのインフルエンザ患者報告数

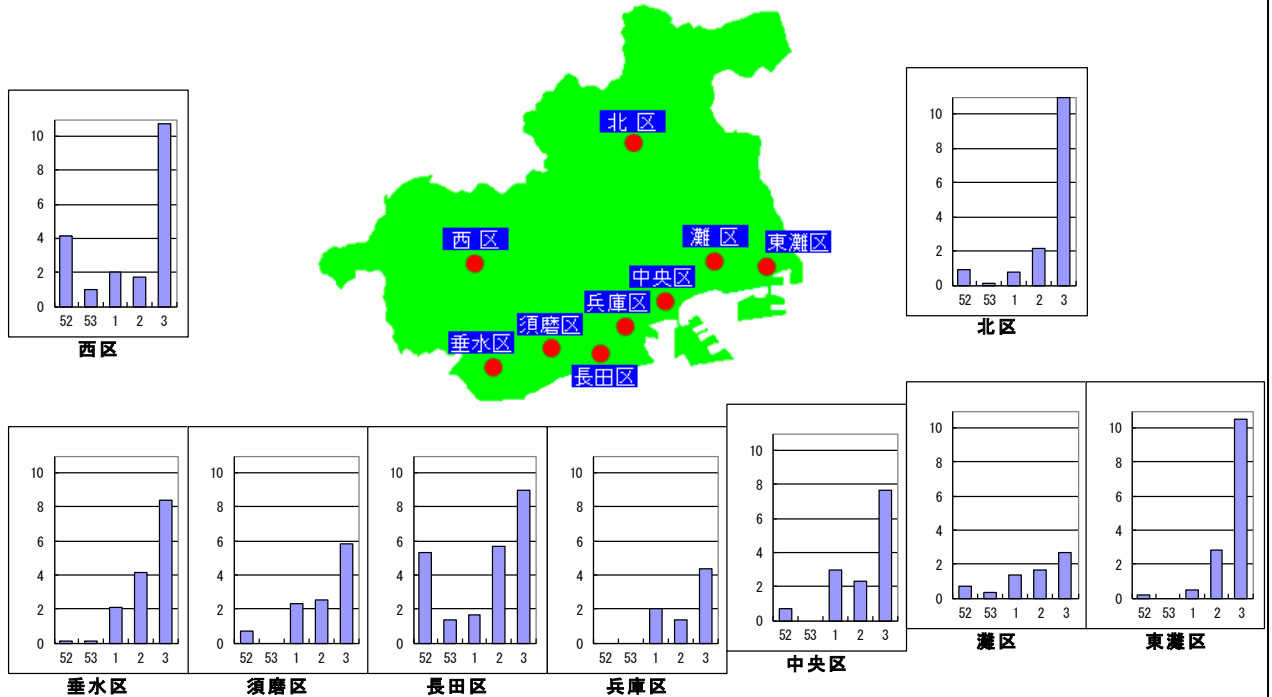


疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 52 週 平成27年12月21日

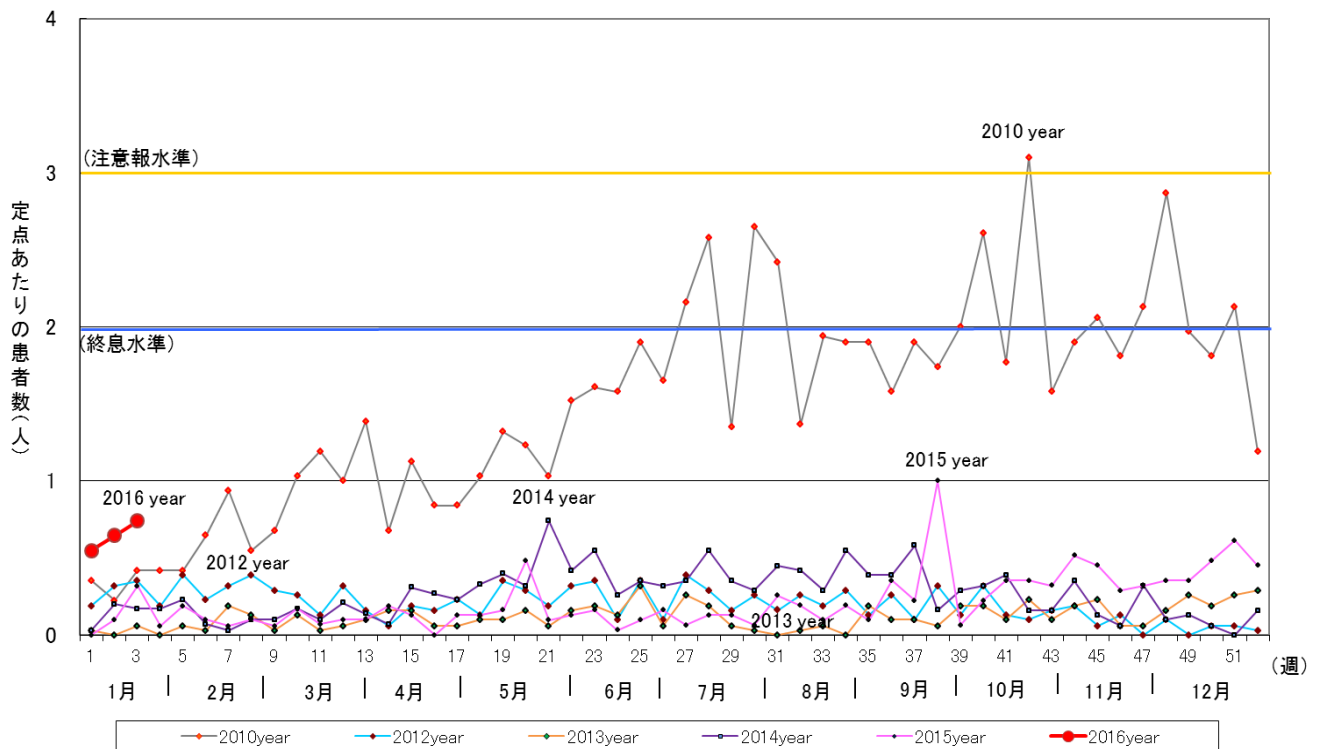
第 3 週 平成28年1月24日

インフルエンザ



※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により報告医療機関数は異なるので区内の継続的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。

定点あたりの流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)報告数



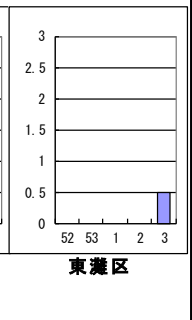
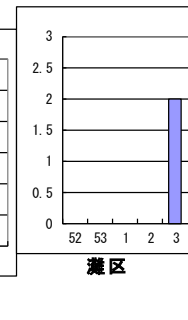
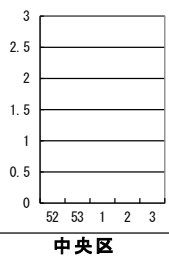
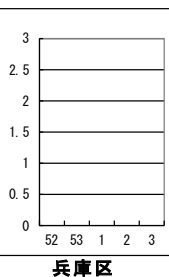
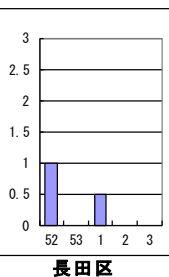
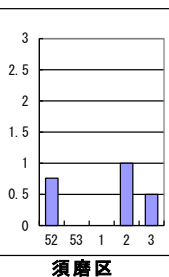
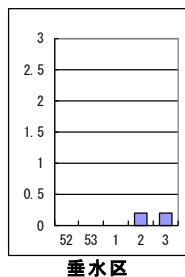
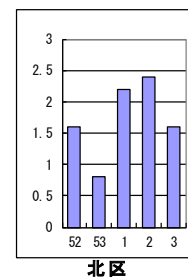
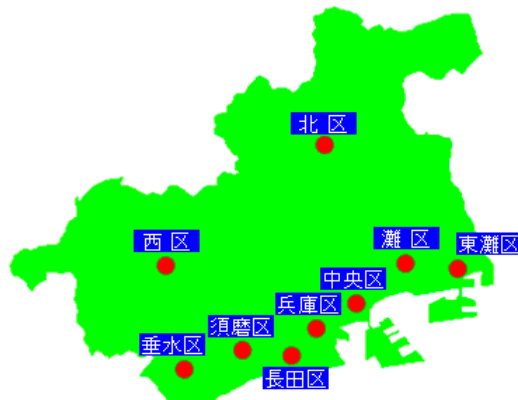
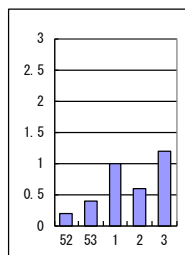
疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 52 週 平成27年12月21日

～

第 3 週 平成28年1月24日

流行性耳下腺炎



※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできませんが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。